

No. J2312

中国における育児と介護のダブルケアの現状と支援実態

西安交通大学公共政策・管理学部社会保障学科 助理教授
万 琳静

本研究は、中国で初めてダブルケアを担う者に特化した量的調査である。本研究は 2023 年度の一年計画である。2023 年 4 月に、パイロット調査も併せて、西安市で 14 人のインタビュー調査をい、11 月に上海の連絡人の協力で質的調査を行う予定であったが、対象者が限定しにくく、まだ方言などの理由で見送った。2024 年 3 月に「問巻星」というオンライン調査会社の協力を得て、陝西省と上海市の両地域で大規模のアンケート調査を実施し、有効回収率は 59.1%で 2064 件である。

30 代を中心に調査した結果、育児の内容において高い順に「子どもとの日常交流」、「遊びや戸外活動の付き合い」、「保育園や習い事への送迎」、「日常生活の世話」、「育児費用の支援」であった。また、女性は男性より育児の頻度が多く、時間も長い。高齢者介護において高い順に「日常生活の世話」、「精神的サポート」、「介護用具の購入」、「高齢者介護関連のマネジメント」、「身体介護」であった。なお、高齢者介護の頻度と時間では男女の差が見られなかった。社会的支援では、家族がダブルケアラーの主な支援者である。また、育児の社会的支援が比較的に多いことが分かった。利用した公的制度は、主に税控除、産休・育休や有給休暇などの職場に関連するものであり、サービス利用においても、公的なサービスより、民間の育児/介護サービスの利用が多い。今後の支援についてもサービスの充実より、休暇や費用面の支援に関する要望が多い。

仕事への影響について、約 4 割の対象者は影響があり、また 3 割以上の人は仕事の時間が減少した。負担について、約 7 割の人は一つの負担より、ダブルケアの負担が大きいと思っている。また、女性はより仕事の変化があり、負担感も感じている。負担の具体的内容では高い順に「経済的負担」、「時間的負担」、「精神的負担」、「身体的負担」「社会参加への制限」、「キャリアアップへの制限」である。

最後に、中国において育児や介護に関する考え方について尋ねた。8 割以上の人は「高齢者と子どもをケアすることは家族の責任である」と思っている、中国ではダブルケアは家族の責任であるという考えは根強く残っていることが分かる。一方、「男性は外、女性は内」という伝統的な男女の役割について賛成しない人が約 6 割であった。

本研究では、量的調査だけでも中国のダブルケアに関する有意義な結果を得ることができた。今後、こうした結果を踏まえて、中国のダブルケアと日本の比較、さらにダブルケアの負担や仕事に影響する要因について深く探っていきたい。